

まなびや訪問

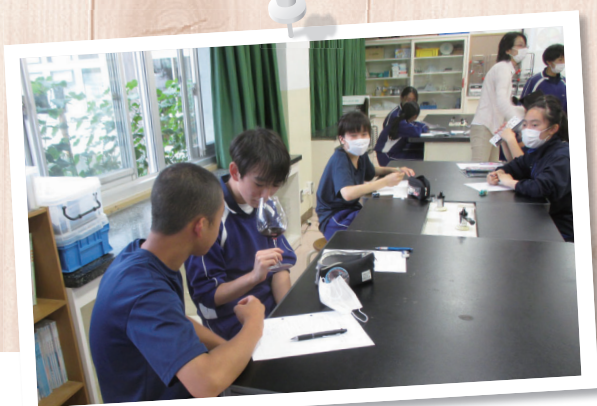
金融教育研究校・
金銭教育研究校
の紹介



ブドウの収穫の様子



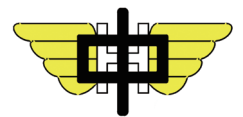
ワイナリー訪問時の作業体験



香りを嗅ぎ分けるテイスティング体験



ブドウの栽培方法について学ぶ



長野県諏訪郡原村立原中学校

原村立原中学校は、八ヶ岳の西麓に位置し、豊かな自然と郷土の文化に恵まれた地域にあります。本校では、地域と共にある学校づくりをめざして、「原村学」という授業を実践しています。この中で生徒たちは、村のよさや課題を地域の「ひと・もの・こと」との関係から体験的に学び、中学生の立場から村づくりに参画することを通じ地域の特色を探究しています。特に、3年生では生徒たちの興味や課題意識を基にテーマ別の活動に取り組んでおり、その選択講座の一つが今回ご紹介する「原村ワインをつくる講座」です。

この講座では、「20歳になったら再会して、オリジナルワインで乾杯しよう！」を合言葉に、実際にワイン農家の方を講師に招き、先輩から木を受け継いだ3年生が学校の中庭でワインブドウ（ピノ・ノワール）を栽培しています。昨年度は23本の原村ワインを醸造することができましたが、4年目となる今年は収穫量の倍増が見込めることから、初めての販売に挑戦する予定です。

しかし、栽培に必要な資材費や醸造委託費、ワインのボトル代などにどれだけの費用がかかるのか、作ったワインがいくらなら売れるのか、いくらの利益を見込み、後輩たちにどのくらいの資金を残せるのかなど、考えるべき課題はたくさんあります。生徒たち自身が実際にワイン農家の方にインタビューをしつつそうした課題を考える中で、「郷土である原村を多くの人に応援してもらいたい」という思いを実現するとともに、商品を購入してもらおうということ、買ってくれる人の期待があったことを成り立つものだ、ということを実感してほしいと思います。

この「原村学」のキーワードは、「つながり」です。それは、自己と郷土のつながりから人生の土台を確認し、そこから未来につながる自分の姿を、身近な大人に重ねながら思い描くことです。彼らが中学校を卒業した5年後、さらに成長した彼らと熟成したワインを片手に、中学校生活を思い出しながら語り合える日がくることを心から願っています。